

「最期の時」へ備えを 公民館が「終活セミナー」



会場には多くの方が詰め掛けて説明を聞いた

箕輪町公民館主催の講座「終活（しゅうか）セミナー」が15日、町地域交流センターで開かれた。エンディングノートや遺言書の書き方などについて、相

続手続支援センターの相談員から説明を受け、万一の備えとして関心を寄せた。同センター専任相談員の清水あゆみさんが

講師を担い、「人生の最期を考える」の題で講演した。近年、遺産分割に伴う家事調停事件が増加傾向にあるといい、のこった家族に気持ちを伝える一手段として、エンディングノートの活用を呼び掛けた。

増加の原因に、清水さんは「両親と同居する世帯が少なくなってきた」と指摘。家族を困らせないために、財産や家系図、自分の健康状態、自分の気持ちをエンディングノートに記し、「遺言書を書くまでのステッ

プに使うほしい」と強調した。

「思い掛けない争い」を避けるため、公正証書遺言と自筆証書遺言など法的に効果がある遺言書も紹介した。遺言書がある場合の相続発生後の流れもレクチャーし、「エンディングノートは自分について考える機会にもなる」と活用を促した。

講座は公民館が全9回の日程で開く「快適ライフのすすめ」冬季講座の一環で、約100人が受講した。最終回の次回は3月13日（水）、インテリアをテーマに開講する。

2013. 2. 16

みのか新聞